

授業 科目名	生涯身体運動科学 (Physical Fitness for the life)	履修年次：選択	1 単位:30 時間	担当教員名: 島田美恵子 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1 ～ 4 年	コード : LAA111	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 II. コミュニケーション能力 IV 健康づくりの実践 VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
「身体活動」は、体力の維持・向上を目的として計画的・意図的に実施する「運動」と、日常生活における通学・労働などの「生活活動」で構成される。本授業では、生涯にわたって、いつでもどこでも自らの健康・体力づくりに取り組むための手法と、適度な筋肉量を備えたからだを養う方法を学ぶ。到達目標は、①健康・体力づくりの基礎理論が理解すること ②筋肉量を増加させる運動・身体活動を実践できること（除脂肪量増加）の2点である。				
〔授業の概要〕				
主に歩行を中心とした身体運動や日常生活活動中に実施できる筋力トレーニングを通して、からだが変化していくことや運動の楽しさを体得する。また、健康に関連する体力を評価する方法を学ぶ。体脂肪率は男子 10～15%、女子 20～25%が基準とされるが、自分にとって適切な体脂肪率・体組成を理解し、からだづくりを実践する。毎回、体重・体脂肪率を測定する。				
キーワード：健康・体力づくり 適正体重 日常身体活動量				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	4/11	ガイダンス	体組成評価の方法を知る	
第 2 回	4/18	体力テスト	新体力テストを基本とした測定	
第 3 回	4/25	身体活動基準	推奨される 1 週間あたりの運動量を知る	
第 4 回	5/2	ストレッチ	からだをメンテナンスする手法を知る	
第 5 回	5/9	歩行①	体脂肪の燃焼に効果的な運動強度 脈拍で運動の強度を測る	
第 6 回	5/16	歩行②	体脂肪の燃焼に必要な運動時間を理解して実践する	
第 7 回	5/23	生活習慣チェック歩行③	課題の提示（食事・睡眠・体内リズムと体重の変化振り返り）	
第 8 回	5/30	歩行③	歩幅、歩容を測定・評価する。	
第 9 回	6/6	ジョギング	運動強度を高める インターバルジョギングなど	
第 10 回	6/13	筋力トレーニング①	筋力を高める理論とトレーニングの方法を知る	
第 11 回	6/20	筋力トレーニング②	筋肉に対する様々な筋力トレーニングを実践する	
第 12 回	6/27	調整力トレーニング	調整力の意味を理解し、トレーニング法を知る	
第 13 回	7/4	からだのイメージ	野口体操など、動きとイメージから表現運動を実践する	
第 14 回	7/11	体力テスト	からだの変化を測定し、評価する	
第 15 回	7/18	レポート作成	レポートのテーマ ①自己体力診断 ②除脂肪量を増やす実践についてまとめ	
履修条件		なし		
予習・復習		実技授業に備えての体調管理。余暇時間は適度な身体活動を実践すること。復習：自主学习時間で Forms にて記録を作成・提出する。		
テキスト		なし		
参考書・参考資料等		必要に応じて資料を配付する。		
学生に対する評価		授業態度(意欲・積極性等)60% 毎回の記録およびレポート 40%		

授業 科目名	生涯身体運動科学 (Physical Fitness for the life)	履修年次：選択	1 単位:30 時間	担当教員名: 島田美恵子 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1 ～ 4 年	コード：LAA111	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 II. コミュニケーション能力 IV 健康づくりの実践 VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
「身体活動」は、体力の維持・向上を目的として計画的・意図的に実施する「運動」と、日常生活における通学・労働などの「生活活動」で構成される。本授業では、生涯にわたって、いつでもどこでも自らの健康・体力づくりに取り組むための手法と、適度な筋肉量を備えたからだを養う方法を学ぶ。到達目標は、①健康・体力づくりの基礎理論が理解すること ②筋肉量を増加させる運動・身体活動を実践できること（除脂肪量増加） の2点である。				
〔授業の概要〕				
主に歩行を中心とした身体運動や日常生活活動中に実施できる筋力トレーニングを通して、からだが変化していくことや運動の楽しさを体得する。また、健康に関連する体力を評価する方法を学ぶ。体脂肪率は男子 10～15%、女子 20～25%が基準とされるが、自分にとって適切な体脂肪率・体組成を理解し、からだづくりを実践する。毎回、体重・体脂肪率（腹囲）を自己申告する。				
キーワード：健康・体力づくり 適正体重 日常身体活動量				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	10/3	ガイダンス	体組成評価の方法を知る	
第 2 回	10/10	体力テスト	新体力テストを基本とした測定	
第 3 回	10/17	身体活動基準	推奨される 1 週間あたりの運動量を知る	
第 4 回	10/24	ストレッチ	からだをメンテナンスする手法を知る	
第 5 回	10/31	歩行①	体脂肪の燃焼に効果的な運動強度 脈拍で運動の強度を測る	
第 6 回	11/7	歩行②	体脂肪の燃焼に必要な運動時間を理解して実践する	
第 7 回	11/14	歩行③	歩幅と歩く速さ、姿勢と歩き方を測定・評価する	
第 8 回	11/21	ジョギング	運動強度を高める インターバルジョギングなど	
第 9 回	11/28	生活習慣チェック	（食事・睡眠・体内リズムと体重の変化を振り返る）	
第 10 回	12/5	筋力トレーニング①	筋力を高める理論とトレーニングの方法を知る	
第 11 回	12/12	筋力トレーニング②	筋肉に対する様々な筋力トレーニングを実践する	
第 12 回	12/19	調整力トレーニング	調整力の意味を理解し、トレーニング法を知る	
第 13 回	1/9	からだのイメージ	野口体操など、動きとイメージから表現運動を実践する	
第 14 回	1/23	体力テスト	からだの変化を測定し、評価する	
第 15 回	1/30	レポート作成	レポートのテーマ ①自己体力診断 ②除脂肪量を増やす実践についてまとめ	
履修条件		なし		
予習・復習		実技授業に備えての体調管理。余暇時間は適度な身体活動を実践すること。復習：自主学习時間で Forms にて記録を作成・提出する。		
テキスト		なし		
参考書・参考資料等		必要に応じて資料を配布する		
学生に対する評価		授業態度(意欲・積極性等)60% 毎回の記録およびレポート 40%		

授業 科目名	生活とデザイン (Life and Design)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 上野 義雪 (非常勤講師室) [博士 (工学) 人間工学専門家 キッチンスペシャリスト]
		全学科専攻 1~4 年	コード: LAB101	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善,Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕日常生活は、デザインされた多くの「もの・空間」と関わりをもつ。安全で円滑な生活は医療従事者として不可欠であり、生活科学の視点で人間の諸特性の理解、生活の観察などにより「もの・空間」の使い手としての使い方を理解し、生活に関係する「もの・空間」の見方、選び方、使い方、そして評価する能力を身につけることができる。				
〔授業の概要〕「もの・空間」の多くはデザイン性を優先して作られることが多い中で、生活科学の応用例の紹介を通して「もの・空間」の機能や人との関わりを考え、問題の発見や解決のできる知識を習得する。講師の「建築・室内・人間工学」における教育・研究・社会的活動における実務経験をもとに、生活に関わる「もの・空間」の使用性について評価のできる内容とした。				
キーワード: 日常生活 デザイン 人間工学 ユニバーサルデザイン 安全性 機能性 評価				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/06	生活とデザイン	生活ともの・空間デザイン、生活科学との関り	
第2回	10/20	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザイン、SDGs とデザイン	
第3回	10/27	保健・医療への応用	看護・栄養・歯科・リハビリ分野におけるもの・空間	
第4回	11/10	もの使いと五感	五感のもの・空間への応用	
第5回	11/17	ステレオタイプ	ポピュレーションステレオタイプのデザインへの応用	
第6回	12/01	人体寸法・動作寸法	人体・動作寸法の特性ともの・空間デザイン	
第7回	12/08	工業製品への応用	日常生活機器・道具のデザイン	
第8回	12/15	人体系家具への応用	家具の分類 いすのデザイン	
第9回	12/22	シートへの応用	自動車・鉄道・航空機用シートのデザイン	
第10回	01/05	寝具への応用	寝具の役割とデザイン	
第11回	01/19	準人体系家具への応用	机・テーブル・作業台の役割とデザイン	
第12回	01/26	建物系家具への応用	収納家具・衝立の役割とデザイン	
第13回	01/28	キッチン設備への応用	キッチン設備のデザイン	
第14回	02/02	トイレ設備への応用	トイレ設備のデザイン	
第15回	02/03	浴室・洗面設備への応用	浴室・洗面設備のデザイン 15 週のまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習：配布資料を熟読。 復習：ノートの見直し。		
テキスト		特になし。必要な資料は事前に配布する。		
参考書・参考資料等		『人間工学からの発想』小原二郎著、講談社（ブルーバックス）。絶版。		
学生に対する評価		15 週のミニレポート（90%）、学習態度（10%）により、総合的に評価する。		

授業 科目名	法学（日本国憲法） （Law）	履修年次：1～4年	2単位 30時間	担当教員名： 古屋 等 （非常勤講師室）
		必修：歯 選択：看栄理作	コード：LAB102	
〔DP〕 III. 実践に必要な知識 VI. 他職種との協働 VII. 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 法の本質を理解し、日常生活で生じる諸問題を、法学や憲法の権利・自由の観点から考察できる能力を育成する。				
〔授業の概要〕 法とは成文であれ不文であれ、私たちの自由や権利を守るための相互の契約（＝合意）を意味します。国家創造にあたり制定された法が憲法であり、具体的な生活関係を規律するために議会により制定された法が法律です。いずれも、私たちの自由や権利を保障しますが、これらも社会における相互調整のために一定の制約に服します。この授業では、自由や権利が保障される限度や制約の必要について学びます。				
キーワード：基本的人権、国民主権、民主主義、法の支配、公共の福祉、司法審査				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/11	ガイダンス	授業計画、履修上の注意、法の学び方	
第2回	4/18	法とは何か	法の本質と目的、法の遵守と実効性	
第3回	4/25	法の種類と段階構造	成文法と不文法、憲法の最高法規性	
第4回	5/2	法律用語と法解釈	成文法の解釈方法、法の一般原則	
第5回	5/9	近代憲法の意義	近代憲法の構成要素と立憲主義	
第6回	5/16	憲法の基本原理①	憲法前文と国民主権、民主主義、小テスト	
第7回	5/23	憲法の基本原理②	権力分立と法の支配の原則	
第8回	5/30	第9条と平和主義①	主権国家と自衛権、国連憲章第51条	
第9回	6/6	第9条と平和主義①	第9条をめぐる学説と政府見解の対立	
第10回	6/13	基本的人権の本質	個人の平等と人格の尊重、人権の観念、小テスト	
第11回	6/20	基本的人権の種類	人権の歴史的生成と自由権の類型	
第12回	6/27	基本的人権の保障	個別人権規定と新しい人権	
第13回	7/4	基本的人権の内容①	精神的自由権と経済的自由権	
第14回	7/11	基本的人権の内容②	経済的自由権と社会権、小テスト	
第15回	7/18	基本的人権の限界	司法審査と違憲立法審査制度	
履修条件		なし		
予習・復習		事前にテキストを講読し、レジュメの該当箇所を閲覧しておいてください。		
テキスト		上野幸彦・古屋等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）		
参考書・参考資料等		テキストを持参いただければ不要です。		
学生に対する評価		授業中の小テストを20%、期末テストを80%で合算して評価します。		

授業 科目名	社会学 (Sociology)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 島村賢一 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1～4 年	コード: LAB103	
〔DP〕 II コミュニケーション能力、VI 多職種との協働、VII 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕本講義では、社会学の基本的な考え方や方法を理解し、医療関係者として様々な社会現象を深く広く洞察できるようになることを目標に、以下のテーマを学習していく。 ①社会学入門と社会学の歴史、②社会調査法：医療関係者に必要な社会調査の基本とスキルを学習、③社会学の基礎概念：行為、社会関係、集団、社会化、社会構造といった基本概念の学習、④現代社会の諸相：家族とジェンダー、少子高齢化、労働世界の変容、民族問題、グローバル化				
〔授業の概要〕人間がいかに地球環境において他者と共に生きる存在であるのかを理解することを目的とする。そのために、自我、他者、役割、集団、組織、社会構造などの概念について学習する。そして、アイデンティティ、コミュニケーション、コミュニティ、家族、労働、グローバル化などの具体的現象を取りあげ、その現状と変化について社会的に考察する。そこから、現代社会における人間のあり方、人間と人間、人間と自然との関係、集団や社会のあり方を明らかにし、これからのあるべき姿について探求する。				
キーワード：地球環境、他者理解、集団、社会構造、グローバル化				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/3	ガイダンス	医療関係者が社会学を学ぶ意味	
第2回	10/10	社会学とは何か	社会学という学問の特質	
第3回	10/17	社会学の歴史その1	19 世紀の社会学者たち	
第4回	10/24	社会学の歴史その2	20 世紀の社会学者たち	
第5回	10/31	社会調査の基礎	社会調査の基本的特質の理解	
第6回	11/7	量的調査	アンケート調査の方法	
第7回	11/14	質的調査	フィールドワークとヒアリングの方法	
第8回	11/21	社会学の基礎概念 1	行為論と社会関係論	
第9回	11/28	社会学の基礎概念 2	集団論と社会構造論	
第10回	12/5	家族とジェンダー	家族とジェンダーの歴史社会的考察	
第11回	12/12	少子高齢社会	少子高齢化と人口構造の変動の社会的意味	
第12回	12/19	民族とエスニシティ 1	民族問題についての基礎概念と歴史的理解	
第13回	1/9	民族とエスニシティ 2	日本と欧州の外国人労働者問題	
第14回	1/23	グローバル化その1	ベックの世界リスク社会論その1	
第15回	1/30	グローバル化その2	ベックの世界リスク社会論その2	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてプリントを熟読のこと。復習はメモとノートの見直しを推奨。		
テキスト		逐次、プリントを配布する		
参考書・参考資料等		ウルリッヒ・ベック著 島村賢一訳『世界リスク社会論』ちくま学芸文庫、2010		
学生に対する評価		期末理解度テスト（レポート形式）（40%）、研究レポート（30%）、日ごろの学習態度（30%）により総合的に評価する。		

授業 科目名	文化人類学 (Cultural Anthropology)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 中畑 充弘 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1～4 年	コード: LAB104	
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナルリズム II コミュニケーション能力 VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
「人類学」に限らず全ての人文科学・社会科学領域の subject およびobject は人間です。文化人類学は、文化の研究が目的なのではなくて、それはあくまで手段であり目的は人間の理解です。				
①他者や異文化に触れることで自己を捉え返し世界を問い直すという思考力の醸成、感性の涵養ができるようになります。				
②グローバル・ボーダレス・ダイバーシティ等「文化多様性」尊重の認識に立脚した国際的な視野を養うことができます。				
〔授業の概要〕				
本講義では、人間とは一体、何であるのか？これまで何をしてきたのか？これからどこに向かっていこうとするのか？ 現在も人類をとりまく諸状況がどんなに激動・変転・混沌の環境下中にあっても私たちは自らを捉え返し何かを希求する強い衝動に駆られるのは何故か？そうしたことを念頭に文化人類学上の知識・理論・方法・技術を紹介します。				
キーワード: 文化・民族・民俗・聖/俗・世界観・死生観・性・生殖・婚姻・家族・親族・ネットワーク				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/12	人間・文化とは何か？	種族・人種概念 言語・思考の発生	
第2回	4/19	現代と文化人類学	社会と宗教 文化多様性と相対性認識 対立と連帯	
第3回	4/26	採集狩猟民と牧畜農耕民	バンド社会 アニミズム シャーマニズム トーテミズム	
第4回	5/10	贈与交換の人類学	マリノウスキーとモース レヴィ=ストロースの交換論	
第5回	5/17	婚姻・家族・親族	性の禁忌(インセスタブー) 外婚/内婚 忌避/冗談 関係	
第6回	5/24	祭祀儀礼と通過儀礼	呪術・妖術・邪術 超自然的資力 神話 コスモロジー	
第7回	5/31	シンボリズムと世界観	内/外 浄/不浄 聖/俗 あの世/この世 コミュニタス	
第8回	6/7	死者儀礼と祖先崇拜	霊魂と身体 憑依・供犠・再生観 植物状態と脳死状態	
第9回	6/14	文化変容の過程	文化の接触・伝播・拒否 モルガンの図式 新進化主義	
第10回	6/21	構造主義・機能主義	ラドクリフ=ブラウン マリノウスキー レヴィ=ストロース	
第11回	6/28	ジェンダーとセクシュアリティ	クラ交換 第3の性 トランスジェンダー	
第12回	7/5	医療と文化、性と生殖	民俗生殖観 人工授精と代理母 ジェニターとペイター	
第13回	7/12	観光と文化	文化遺産とノスタルジア グリーン・ツーリズム 地域活性化と開発	
第14回	7/19	文化人類学と民族誌	オリエンタリズム批判 ポストモダンの人類学 文化表象	
第15回	7/26	人間とネットワーク	血縁 地縁 社縁 女縁 情報縁	
履修条件		講義形式は、板書・パワーポイント・VTR (世界の諸民族) その他、適宜レジュメを配布します。		
予習・復習		特に予習する必要はありませんが授業当日の内容の復習をおこなうようにしてください。		
テキスト		『沖縄 備瀬』 著者: 中畑 充弘 出版社: 新典社 定価: 1,540 円		
参考書・参考資料等		特に指定しない。授業の中で適宜紹介します。		
学生に対する評価		定期試験80%、授業内の課題「小レポート」等 10%に加え 「授業への意欲的参加・建設的な意見」 10%等の平常点を加算します。		

授業 科目名	経済学 (Economics)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 安孫子 誠男 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1～4 年	コード:LAB105	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 現代の経済社会の構造と変容を捉えるうえで経済学的思考法がどのような意味と有効性をもつかについて学ぶ。 半期を通じて、日々の新聞記事・論説のエッセンスを、経済学的根拠をもって解説できるような素養が身につくことを目標とする。				
〔授業の概要〕 「経世済民」の学としての経済学は、資源配分の効率性と分配の公正性を同時に探究する学問である。この授業では、経済学の学問体系を系統的に解説するというよりは、経済学の基本的ツールを用いて現代社会の構造と行動がどのように彫り深くみえてくるか、に力点をおく。講義の前段 3 分の 2（第 1～10 回）は、通例のマクロ経済学の分析ツールを説明することにあて、後段（第 11～15 回）は、経済学の最近の成果をわかりやすく解説しつつ、多少とも国際比較の眼を養うことに資したい。				
キーワード: マクロ経済、有効需要、流動性選好、イノベーション、雇用流動化				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1 回	4/15	経済学の思考法	「経世済民」の学としての経済学、成長と分配の好循環	
第 2 回	4/22	マクロ経済学の考え方	新古典派経済学とケインズ経済学	
第 3 回	5/13	有効需要の原理	GDP の三面等価、GDP の決定と構成要因、消費関数	
第 4 回	5/20	投資・貯蓄バランス	財政収支、貿易・サービス収支、所得収支、経常収支	
第 5 回	5/27	〈貨幣の中立性〉をめぐる討論	貨幣数量説、貨幣の取引需要と投機的需要、流動性選好	
第 6 回	6/3	金融政策と貨幣供給	マネーストックとマネタリーベース、貨幣乗数	
第 7 回	6/10	経済成長と財政健全化	プライマリーバランス、経済成長率と金利	
第 8 回	6/17	財政再建の条件	プライマリーバランスの黒字化、国債＜貯蓄の可能性	
第 9 回	6/24	国際経済をみる眼 (1)	比較優位と国際分業、国際収支統計の見方	
第 1 0 回	7/1	国際経済をみる眼 (2)	購買力平価、為替レートと国際通貨制度	
第 1 1 回	7/8	分配の公正性	ジニ係数の国際比較（再分配所得・ケイパビリティ）	
第 1 2 回	7/15	技術革新の経済学 (1)	プロセス革新とプロダクト革新、需要創出型イノベーション	
第 1 3 回	7/22	技術革新の経済学 (2)	技術レジームの構成要因、技術レジームと企業行動	
第 1 4 回	7/24	労働市場の経済学 (1)	労働市場と技能形成、雇用システムの国際比較	
第 1 5 回	7/29	労働市場の経済学 (2)	フレキシキュリティの国際比較	
履修条件		特になし		
予習・復習		前の週に紹介する資料を精読して授業に臨んでほしい。		
テキスト		なし。毎回 資料を用意する。		
参考書・参考資料等		吉川洋『マクロ経済学』（現代経済学入門）第 4 版、岩波書店、2017 年 野口悠紀雄『どうすれば日本人の賃金は上がるのか』日本経済新聞出版、2022 年		
学生に対する評価		日々の授業の取り組み度・理解度（20%）、中間レポート（40%）、 期末レポート（40%）により、合計点で評価する。		

授業 科目名	国際関係論 (international Relations)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 水口章 [難民審査参与員] (非常勤講師室)
		全学科専攻 1～4 年	コード: LAB106	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 II コミュニケーション能力、VII生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、国際社会と身近な社会との関係を理解するために必要な考え方を学び、（１）国際時事問題、（２）国、地域、人の相互依存関係の構築と変化、（３）国際移民の受け入れにともなう多文化共生について考察する。そのことを通し、市民社会で必要な広い視野と知識を持てるようになる。				
〔授業の概要〕 今日の日本社会では、日常生活や職業の場で国際理解、異文化コミュニケーション能力が求められる機会が増えている。この授業では、国際ニュースをテーマに国際関係と情報分析の基礎知識を学ぶ。また、相互依存関係と国際移民に関する学びでは、シンクタンクの研究員および法務省難民審査参与員の経験に基づく実学的内容を取り上げる。これらの学びから、国際社会を知ることへの関心を高め、積極的に探求できるようになる。授業は講義形式が中心となる。				
キーワード: 国際理解、相互依存関係、市民社会、国際移民、多文化共生				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	10/3	国際社会の歴史的変化	国際理解を深めることの意味	
第 2 回	10/10	国際関係の見方 1	パワーと国益について	
第 3 回	10/17	国際関係の見方 2	対立と協調	
第 4 回	10/24	国際関係の見方 3	規範と制度	
第 5 回	10/31	国家の能力	国家の能力と作用について	
第 6 回	11/7	国家と社会の関係	市民社会の形成について	
第 7 回	11/14	国家とナショナリズム	帰属意識について	
第 8 回	11/21	国家の社会福祉への介入	社会福祉制度への再配分について	
第 9 回	11/28	相互依存関係 1	国際法（安全保障、人権）について	
第 1 0 回	12/5	相互依存関係 2	地域連携（EU、ASEAN など）について	
第 1 1 回	12/12	国際移民の歴史的変化	1945 年以前の主要国の国際移民政策について	
第 1 2 回	12/19	国際移民と経済	高度成長期における主要国の国際移民政策について	
第 1 3 回	1/9	国際移民と日本	日本の外国人受け入れ政策について	
第 1 4 回	1/23	国際移民の受け入れ	多文化共生とコミュニケーション能力について	
第 1 5 回	1/30	まとめ	レポート内容の概要発表とディスカッション	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習資料を事前に熟読（30 分程度）を行ってください。復習は、授業で使した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください（90 分程度）。		
テキスト		特になし		
参考書・参考資料等		適宜、授業資料（プリント）を配布する。		
学生に対する評価		学期末レポート（60%）、中間課題（10%）、授業への取り組み（コメントシート 30%）により、総合的に評価する。		

授業 科目名	社会福祉学 (Social Welfare)	履修年次 選択	1 単位 15 時間	担当教員名: 佐藤真生子 [社会福祉士] (非常勤講師室)
		全学科専攻 1 ～ 4 年	コード:LAB107	
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識、Ⅵ多職種との協働、Ⅶ生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
本講では「その人らしい生活を送るためには？」を大テーマとし、次の3点を主な到達目標としたい。				
① 社会福祉の基本原理を理解する、② 現代社会における社会福祉の役割、課題を理解する。				
③ 社会福祉の問題や課題を自分自身にひきつけて見つめ、福祉社会における“一市民としての私”の役割、“一専門職の卵”として求められる役割について考えることができる				
〔授業の概要〕				
私たちの人生は平坦ではなく、様々なリスクと隣り合わせである。それらが引き起こす生活問題は、個人の力だけで解決することは難しい。社会福祉はこのような生活上の困難を解消し、国民一人一人の生命や暮らしを守り、支えるための一つ的手段であり、思想ともいえる。そこで本講では、当事者（患者や利用者）の自己決定権、ノーマライゼーションなど社会福祉の原理を中心テーマに学習を深めていく。社会福祉というと、とにかく「困っている人を助けてあげる」イメージが強烈だが、そんなイメージを持っている人ほど受講してみたい。自分のモノの見方、考え方に向き合うスペシャルタイムになるかもしれない。授業は、受講生との対話を重視しつつ、動画視聴、ゲスト講話なども取り入れる予定。（シラバスは、順序や内容が一部変更となることもある）				
キーワード：生活問題、ノーマライゼーション、社会モデル、自己決定、自己実現				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/10	生活問題と社会福祉	生活問題とは何か、生活問題と社会福祉の関係は？	
第2回	4/17	社会福祉とは？	社会福祉はいつ、どこで、なぜ誕生し、どのように発展してきたか？	
第3回	4/24	社会福祉の原理その1	ノーマライゼーション思想をつかむ 普通って一体何だろう？なぜこの思想が誕生したの？	
第4回	5/1	社会福祉の原理その2	自立と「社会モデル」、新しい自立概念を学ぶ	
第5回	5/8	社会福祉の原理その3	自己決定と参加：当事者の自己決定権を支えるには？	
第6回	5/15	ゲスト講話から学ぶ	ゲストスピーカー講話	
第7回	5/22	ゲスト講話から考える	当事者の語りを踏まえ、援助の視点を学ぶ	
第8回	5/29	共生社会への取り組み	「地域で暮らす」ために 各地の先進的な取り組み、様々な社会資源を知る	
履修条件		毎回リフレクションを提出できること。 二年次の必修科目「保健医療福祉論Ⅰ」と連動する内容もあるので、この領域に興味がある学生は、受講してみるのもあり。		
予習・復習		事前配布資料などを読むこと・提示課題を行うこと		
テキスト		指定なし		
参考書・参考資料等		授業内で随時紹介する		
学生に対する評価		レポート（50%）、リフレクション（50%）により総合的に評価		

授業科目名	国際的な健康課題 (Global health issues)	履修年次：選択	1 単位 15 時間	担当教員名： 牧 純 (非常勤講師室)
		全学科専攻	コード:LAB108	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識、V1 多職種との協働、VII 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 グローバルな国際保健の探求を究極のテーマとする。 具体的には、国際的な健康課題 (global health issues) について世界で起きている現状を理解し、健康の社会的決定要因と健康を関連づけて考えてみることを学ぶ。ともすれば個人の問題としてとらえられがちな健康課題を、とりまく環境と社会を背景に、今一度グローバルスタンダードから再考する。その結果、我々自身のみならず、来日のいわゆるインバウンドにも価値ある体系の構築を目指す。最終的には、国際医療協力のベースづくりを行うことにもなる。				
〔授業の概要〕 まずは世界に視野を広げてみることにする。自分が知らないことがいかに多いかに気付くはずである。地球上の人々の健康を考える際に、日本国内外の現場でおきていることを、またなぜそれがおきているのか、と同時に日本の現状、たとえばインバウンドや移民の急増にも、新しい視点より考える機会となる。講義は、健康とは何かの定義から始まり、ワークなどもとりいれて、健康科学の世界的な視座を自身に構築することを目指す内容となっている。本内容は、担当教員の JICA 実務経験が大いに生かされる。まずは世界に視野を広げてみることにする。自分が知らないことがいかに多いかに気付くはずである。地球上の人々の健康を考える際に、日本国内外の現場でおきていることを、またなぜそれがおきているのか、と同時に日本の現状、たとえばインバウンドや移民の急増にも、新しい視点より考える機会となる。講義は、健康とは何かの定義から始まり、ワークなどもとりいれて、健康科学の世界的な視座を自身に構築することを目指す内容となっている。本内容は、担当教員の JICA 実務経験が大いに生かされる。				
キーワード:国際保健、国際医療協力、健康課題、感染症、非感染症 (いわゆる NCD)				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1 回	10/2	イントロダクション	地球規模で立体視すべき国際保健	
第 2 回	10/9	21 世紀における健康観	国際保健のあるべき理想像、例：温泉の活用	
第 3 回	10/16	世界の健康・不健康の現状	世界の人々の健康課題に関する現状、史的考察	
第 4 回	10/23	世界的な健康課題 (1)	国際協力を必要とする感染症、寄生虫対策	
第 5 回	10/30	世界的な健康課題 (2)	国際協力を必要とする非感染症、 教科書・ノート参照によるミニレポート作成	
第 6 回	11/6	世界的な健康課題 (3)	今我々の出来ること、行うべきこと	
第 7 回	11/13	まとめとミニレポート作成	全体を整理しながら話し合う	
第 8 回	11/20	最終の確認	ミニレポートをもとに補充と確認	
履修条件		特になし、国際舞台で活躍したい方々に好適な授業内容		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。		
テキスト		牧 純著『国際医療史入門』(青山社 ISBN9784883593385)		
参考書・参考資料等		授業中に適宜指示する。例年、目黒寄生虫博物館の見学を推奨。		
学生に対する評価		評価のウエイトは第 7 回目の期末レポートに約 50%の重き。残りは第 5 回目の授業中に実施のミニレポート記述。いずれの場合も教科書とノート参照可。暗記力を見ることはしない。授業内容とその趣旨の理解度、および日頃の学習態度、とりわけ授業を傾聴しているか、教科書などを精読しているかを判断材料とする。		

授業 科目名	人権・ジェンダー (Human Rights and Gender)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 島村賢一 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1～4 年	コード: LAB109	
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナルリズム、II コミュニケーション能力、VI 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 医療関係者にとって不可欠な人権感覚を培うために、人権の基本と権利の平等を学習する。さらに現代社会が抱えているジェンダーの不平等について考察し、男女共同参画社会の実現のための方法を探求する能力を得られるようにする。				
〔授業の概要〕 現代社会におけるジェンダーの不平等にはどのようなものがあるのだろうか。この授業では、そのような不平等を人権という観点から歴史的に考察する。さらに 20 世紀後半以降の女性の地位向上に向けた世界的な取り組みを概観し、どのようにしてジェンダーの平等な社会を実現していくのかについて考える。政治や労働、教育、家族など、女性と男性がおかれている状況の違いとその背景を取り上げ、諸外国との比較も行いながら、比較社会論的な考察も加える。				
キーワード: 人権、平等と不平等、ジェンダー、男女共同参画社会、国連				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	10/6	ガイダンス	講義内容、参考文献、評価基準などについて	
第 2 回	10/20	近代社会と人権	近代社会の特質と人権の関連についての基本的理解	
第 3 回	10/27	ジェンダーとは何か	ジェンダーに関する基礎概念の理解	
第 4 回	11/10	第 1 波フェミニズム	女性の参政権と法的平等	
第 5 回	11/17	第 2 波フェミニズム	「男性社会」への異議申し立てー欧米と日本ー	
第 6 回	12/1	国際社会とジェンダー	国連と女性差別撤廃条約	
第 7 回	12/8	家族とジェンダー	家族とジェンダーの歴史社会学的考察	
第 8 回	12/15	ジェンダーと労働 1	アンペイド・ワークと近代社会	
第 9 回	12/22	ジェンダーと労働 2	日本型企业社会とジェンダー	
第 1 0 回	1/5	ジェンダー統計	統計からみた日本のジェンダー不平等の現状	
第 1 1 回	1/19	人権とは何か	人権の発展と類型に関する歴史的考察	
第 1 2 回	1/26	性と生殖の健康・権利	産まない自由と産む自由	
第 1 3 回	1/28	暴力とジェンダー	親密な関係性のなかでの暴力、DV防止	
第 1 4 回	2/2	ジェンダー平等政策	ジェンダー平等政策の各国比較	
第 1 5 回	2/3	男女共同参画社会とは	男女共同参画社会基本法の目標と課題	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてプリントを熟読のこと。復習はメモとノートの見直しを推奨。		
テキスト		逐次、プリントを配布する		
参考書・参考資料等		参考文献は授業中に指示する。		
学生に対する評価		期末理解度テスト（レポート形式）（40%）、研究レポート（30%）、日ごろの学習態度（30%）により総合的に評価する。		